

インターバンクの声（2015年8月28日）

木曜日のニューヨーク市場を終えて、ドル円は121円台の前半、ユーロが1.12ドル台中盤での値動きとなっている。豪ドルも0.70ドル台から0.71ドル台後半まで戻しており、0.69ドル台にまで売り込むような試みは少し遠のいたようにも見える。米4-6月期の実質GDP改定値も市場予想よりも強い伸びとなり、欧州の株価上昇に続いて、米株も上昇して終え、リスク回避姿勢もかなり改善されて来ているようだ。中国経済の減速懸念から始まった今回の荒れ相場だが、来週3日には北京で抗日戦争勝利70年記念軍事パレード行事も予定されており、中国当局もこの時期の金融市場の混乱は是が非でも抑え込んで来るだろう。これで中国経済の先行き不安が消えると思っている人は少ないだろうが、取り敢えず一時的には中国を材料にした過度なリスクオフ状態を緩めたと言ったところだろうか。結果的には意外に早いタイミングで121円台に戻ったような気もするが、7月上旬に一旦ドルが大きく下げた時を除けば下値の堅かった122円中盤を超えるのはそう簡単なことではないように思える。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。